



# 会 報

第15号

平成元年9月

社団法人 北海道美術館協力会  
札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



## 新収蔵品紹介 ジニー・ラフナー「統一された球技場理論」

ジニー・ラフナーは、ランプワーク技法を使った制作で近年注目を集めているアメリカの女流ガラス作家。この技法は細いガラス管をバーナーなどで加熱し、息を吹き込んで膨らませたり、あるいは曲げ、伸ばして形成するもので、時間

をかけて少しずつ制作が出来るのが特長である。モナ・リザの絵を顔に持つ男性を中心に、夢の中の出来事のように自由に展開するイメージを繋ぎあわせたこの作品は、ランプワーク技法をきわめて斬新な発想で応用した制作といえよう。

# 生涯学習と美術館

北海道立近代美術館学芸部長 奥 岡 茂 雄



“生涯学習”という言葉が、このところ盛んに使われています。よくいわれることですが、今日の日本社会は所得水準の向上、余暇時間の増大や高齢化の進展、科学技術の高度化、情報化や国際化などといった傾向が著しく強まり、このことが人々の学習に対する意欲を高め、新たな学習のニーズを生み出しています。生涯学習の考え方は、このような時代の要請に応えるものであり、それはまた21世紀の日本の教育の基本的あり方を見据えたものともいえるかも知れません。こうした生涯学習の体系化を総合的に、積極的に進めるために、昨年の7月には文部省に生涯学習局が、今年4月からは道教委でも生涯学習部が機構改革によって発足しております。理念を語り、必要を叫ぶ時期はもはや過ぎ、具体的に動き出す時期が来たということでしょう。

そこで生涯学習の考え方ですが、これは生涯教育とは明らかに違う概念です。中教審の答申（1981年）によれば、生涯学習とは自発的意思に基づいて、必要に応じて自分に適した手段や方法を自分で選んで、生涯を通じて行う学習行為そのものであり、一方生涯教育とは、この生涯学習のために社会の様々な教育機能を総合的に整備充実しようとする教育制度全体の基本理念とされています。そしてその後の臨教審の答申（1987年）では、生涯教育という言葉避け、あえて生涯学習とっています。これは自己啓発、自己学習を骨格に据えたからだといわれます。つまり精神です。どんな場合でも自らの学習意欲を欠いては能力は磨かれませんが、意欲のないものをいわば水飲み場につれていくまで意欲をどう高めていくか。どうすれば地域の人々の自発的な考えや行動が育つのか。この点が生涯学習の大きな課題であることも確かである、といえるでしょう。

いうまでもなく美術館とはそもそも社会的、公共的な

存在で、地域住民の“美術を通じた知的レジャーの場”として社会に貢献することにその価値があり、博物館法で社会教育機関の一つと位置付けられ、また「いつでも、だれでも、どこでも」という生涯学習体系の中で貴重な役割の一端を担うものです。したがってこの生涯学習の考え方とかこれが出て来た背景に無関心でいるわけにはいきません。地域の人々が何を欲しているのか。学習意欲があるといっても多衆ないしは小衆時代といわれるようにニーズはまことに多様化している。また意欲が育っていない人にいかに動機付けを行ってあげればいいのか。そのために美術館としてどこまで出来、何が出来ないのか。その見極めは急務です。

むろん、現在423館あるといわれる日本の美術館がそれぞれ異なった条件下で、時代の動向を常に意識しながら個性的な活動を目指し、精一杯努力を傾けているわけで、その中には地域住民のニーズの把握も不断の基礎調査作業として当然含まれているでしょう。が、この機会に、これまで以上に、というよりは気持ちを一新して、自らの美術館地域というものを見直してみる必要があるのではないか。方法論なんかは地域と館との関係の中から各館が柔軟に考え出せばいいことです。大切なことは、美術館は地域のためにあるという、この至極当たり前のことをどの場合にも忘れてはならないことだと思います。生涯学習時代にふさわしい新しい視点を手に入れるには、こうした館側の姿勢が不可欠なような気がします。

このことはわが北海道立近代美術館も例外ではありません。基本路線である“行動する美術館”の看板にしても、従来と同じようなことを同じ数だけこなしていても、結果として地域の人々の眼には色あせたものに映ってしまうでしょう。地域と一体になって、当館も自己啓発、自己学習を意欲的に進めていきたいと考えています。

# 企画画廊17年で思うこと

会員 本田 英 夫



北海道で企画画廊はまだ無理だと言われながら、まがりなりに17年続けてきたのですがその経営は正直、苦しいものがありました。

開道百余年は屯田兵、開拓農民に始まり、今日も猶、財政依存の体質から脱し得ないという現状の中で、5%経済なりにでも美術市場の形成を期待するということは無理な話だったかも知れません。

私は九州生れの九州育ちですが、勤めていた大阪商船三井船舶という会社を17年前に飛び出して一度も住んだこともなく、友人知人もいなかった札幌に単身のり込み、エルム画廊を開設したのですが、それほど札幌という街には若々しい魅力がありました。

然しいざ絵や彫刻を売る立場になってみると洵に難しい土地柄であるということを感じさせられたのです。北海道には今でも本州のことを内地と呼ぶ人がいますが、本州の画家が札幌で個展を開く場合、植民地にも絵を売りに行くような感覚で東京の有力者の名刺（紹介状）を束にして持参し市内の有名企業を廻り、そして残った絵はたたき売りして帰るという例が多かったし、絵などというものはおつき合いで買われるもの、金一封を渡しておひきとり願うものとの観念が北海道には最近まで残っていたのも事実です。

何年か前になりますが或る会社の社長という初老の紳士が来店され、家を新築したので何点か絵が欲しいが油絵というのがこんなに高いのなら自分で描いて飾りたいから誰か絵を教えてくれる人を紹介して欲しいと言われてがっくりきたことがありました。

企画画廊を始めてから幾度びか様々な壁にぶつかり、或るときは失望し、又挫折しそうにさえなりましたが札幌から撤退しようと考えたことは一度もありませんでした。

寧ろ今では誇りさえ持って札幌で企画画廊を続けてゆこうと考えているのですが、それは北海道には実に純粹に美術を愛する人が多いということはこの17年間で誰よりもよく知ったからであります。

私はよくお客様からいい絵を1点欲しいがどういう絵を選んだらよいかと質問を受けますが、自分と対話出来る絵を選んで下さいと申し上げることにしています。

いい絵は常に心の友です。自分の好きな絵を数多く持っている人は心の友を沢山持っている至福の人です。

北海道には画家、彫刻家を志す人が沢山いますが、絵を描くことも立体を作ることもあくまで精神の作業であるということを忘れては欲しいと思います。（紙数に制限あって詳しいお話が出来ないのが残念ですが）

最近の安井賞、昭和会賞などの受賞作品を見ますと、感覚偏重の映像的な作品が多く、移りゆく時代を感じさせられるのですが、私共の先輩が清貧に耐えながら常にいいタブローを作ろうと命をかけてきたこと、そしてのちのちの人達が今もその作品によって強い感動を受けていることに対する評価を覆してはならないと思います。

私は数多くの秀れた画家、彫刻家と接していつも感ずることは立派な芸術家というのは例外なく人生の達人であるということです。人間的魅力に溢れた人でなければ観る人を感動させる作品は作れない道理です。

札幌が、そして北海道が経済的に蓄積を増し、文化的にも厚味を加え、より高い芸術を進んで受け入れ咀嚼（そしゃく）し得る地域として発展することは決して遠い将来の夢ではないと思っております。

（株式会社 エルム画廊 代表取締役）

## 会員拡充のために

副会長 建部直文



5月に開かれた協力の通常総会で、本年度の重点事項として「会員拡充の件」が提案された。ことし中に個人会員300人、法人会員50団体をなんとか増やしたい、会員一人が新会員一人以上を勧誘するつもりで協力願うという趣旨である。むろん全員が賛成、決定された。

このように書くと、ああ、例のアレかという声がどこからか聞こえてきそうである。まさにそのとおり。また例のアレなのだ……。考えてみると協力の総会で、この問題が採り上げられなかったことがあつたらうか。もしあつたとしてもそれは例外で、ほとんど毎年、お題目のように唱えられ続けてきたような気がする。協力と会員拡充、この問題こそ古くて新しい“万古不易”の命題なのかも知れない。

会員の拡充が毎年のように話題になる理由ははっきりしている。予算シーズンになると、担当者はいやでも次のことに気付かざるを得ないからである。最低限の支出なのに収入が不足だ——もっと会費収入がほしい——会員もふやさなければ、という簡単なこと。ちなみに創立当時、協力会員は個人も法人もボランティアも含めて総計110人だったと記録にある。それが5年後の57年には647人、10周年を迎えた62年には1,090人、そしてただ今現在（平成元年8月）1,272人、内訳は個人971、法人74、学生59、ボランティア168である。伸び率だけをみれば年平均10%で、決して低い数字ではない。いかにせん基礎の数字が小さすぎるのだ。

協力を維持する必要経費（一般会計）の主なものはいんげん費（1人分）、会員拡充強化費（会員のタベ補助など）、近美をはじめ旭川、函館、三岸など各美術館に対する協賛金、出版・通信連絡・広報関係費、そして会員研修費などである。会員は会員証を提示すれば道立の全

ての美術館の全ての展覧会を、同伴者（一人）とともに無料で鑑賞できる。この制度は大好評で、サービスを始めた60年以後利用者が激増している。本人に限り無料入場できたころは年に1,000人台だったのが、63年度は延べ5,963人が利用し、その見返りとして協力から287万円が主催者側に支払われている。これが会員研修費だ。

話がこまかくなった。結論を述べると、このような協力の必要経費は本来なら会員の拠出するお金で賄うべきものである。そうでなければボランティア団体としておかしい。しかし現状は会員の数が足りないために、全経費の約60%を会費収入で賄っているに過ぎない。不足分はボランティア会員が奉仕する売店経営などから寄付してもらったりして辻つまを合わせている。「早く会員が倍になってくれたら」というのが楽屋裏のため息であり、ささやかな望みなのである。

協力発行の10周年記念誌を読み返していて素適な文章にお目にかかれた。札幌の東隆子さんの「会員の声」である。一部をご紹介します。「協力会員になれたお陰で娘と特別展、常設展を見ての話がはずんだり、時にはご無沙汰している年離れた友達を誘っての鑑賞だったり、終日動く彫刻を眺めながらの話しあいが続いたり……。まことに美術館を有意義に利用させてもらっている」。

まことに優雅で張りあいのある会員がいらっしゃるのだ。当方は次元の低いアイデアを一つ。協力会員の年齢層をみると30代以下の若い人が少ないようだ。会員の皆さん、親しい知り合いで成人を迎える方や結婚される方がおりましたら、お祝いのしるしにネーム入り会員証を、どうぞ。そして美術の好きな友人には声をかけて一緒に展覧会に行きましょう。もしかすると新会員になってくれるかも知れない。

# 新 入 会 員 紹 介 (平成元年4月 ~ 平成元年8月)

## ◇ 法 人 会 員 (9団体)

入 年	会 月	氏 名	住 所
1.	4	北洋ファクター(株)	札幌市中央区大通西3丁目11
1.	4	北洋ビジネスサービス(株)	札幌市中央区西2丁目425-1
1.	4	ノースパシフィック(株)	札幌市中央区北2条西3丁目1「札幌フコク生命館内」
1.	4	北洋メンテナンス(株)	札幌市中央区北1条西23丁目243
1.	4	交洋不動産(株)	札幌市中央区北1条西23丁目
1.	4	北海道医師会	札幌市中央区西6丁目
1.	4	北栄振興(株)	札幌市中央区北1条西23丁目
1.	4	北洋ミリオナカード(株)	札幌市中央区大通西3丁目11
1.	5	北洋システム開発(株)	札幌市中央区南5条西25丁目1-25

## ◇ 個 人 会 員 (131名)

入 年	会 月	氏 名	住 所
1.	4	萩原やよい	札幌市中央区南19条西12丁目1-16 コープ野村西山泉606号
1.	4	本間千重子	小樽市奥沢1丁目12-11
1.	4	八百坂康子	札幌市東区北47条東2丁目3-16
1.	4	平本 利彦	札幌市中央区南2条西1丁目 宮本ビル2F
1.	4	小原 清江	札幌市豊平区美園3条4丁目
1.	4	藤井 勇吉	札幌市東区東苗穂11条2丁目891-10
1.	4	矢野由喜子	札幌市中央区大通西17丁目
1.	4	前田 幸子	札幌市西区手稲本町5条3丁目7-5
1.	4	山崎 勇司	札幌市中央区大通西17丁目 朝アバマンプラザ
1.	4	鶴江 和子	札幌市白石区厚別町上野幌812-188
1.	4	田中榮理子	札幌市西区西野10条9丁目3-17
1.	4	野村 瑛子	札幌市豊平区西岡4条10丁目16-10
1.	4	藤森千代記	札幌市中央区南19条西9丁目1-38
1.	4	中原さくえ	札幌市東区北23条東4丁目
1.	4	児玉美和子	札幌市白石区東札幌2条5丁目
1.	4	佐藤 敬子	札幌市東区北16条東1丁目 第三ファミリー札幌220
1.	4	内田久美子	札幌市東区北25条東9丁目
1.	5	酒井 竹男	札幌市西区山の手6条2丁目2 公務員住宅441棟26号

入 年	会 月	氏 名	住 所
1.	5	滝川 貞夫	札幌市西区山の手5条1丁目2-5
1.	5	小銭 寿子	深川市3条7-26
1.	5	武田 弘子	札幌市豊平区月寒西5条10丁目3-31
1.	5	佐藤 啓	札幌市白石区厚別中央4条2丁目26-26
1.	5	小林 緑	札幌市白石区栄通6丁目9-11 ハイッアビーロード402号
1.	5	矢澤 愛子	札幌市白石区厚別北2条5丁目2-2-307
1.	5	吉永 嘉十	岩見沢市幌向南3条1丁目
1.	5	斉藤美津子	札幌市西区西野2条3丁目1-10-105
1.	5	坂本 啓子	石狩郡石狩町花川北3条4丁目87
1.	5	疑問 光子	札幌市中央区南6条西16丁目3-12
1.	5	平澤 隆子	札幌市西区手稲宮の沢487-13
1.	5	菊地まみ子	江別市大麻沢町7-7
1.	5	寺下 富雄	札幌市東区北41条東2丁目3-20
1.	5	山本 恭子	札幌市中央区南22条西9丁目
1.	5	馬見千八子	札幌市中央区南4条西27丁目
1.	5	新井 良子	札幌市南区真駒内南町4-6-9
1.	5	娘名 雅代	札幌市西区山の手1条7丁目3-1 ライオンズM.S山の手503
1.	5	渡辺 貞子	札幌市中央区南17条西10丁目2-20-207
1.	5	西村 信子	札幌市豊平区西岡2-11-16-11
1.	5	浜野 和子	札幌市白石区もみじ台東7丁目2-1
1.	5	佐藤 悦子	札幌市中央区南13条西13丁目1-5
1.	5	庄司ひとみ	札幌市中央区南2条西25丁目 藤井ビル裏参道505号
1.	5	高橋 妙子	札幌市中央区南4条西22丁目1-1-206
1.	5	中川 俊清	石狩郡石狩町花川北2-5-121-4
1.	5	高 勝司	恵庭市幸町458-74
1.	5	富沢 壱子	江別市牧場町23-10
1.	5	高橋つる子	札幌市中央区南2条東6丁目 ギャラリー・ハイッ南2条A-505
1.	5	渡辺 静江	札幌市豊平区西岡3-10-4-12
1.	5	アリー・アックス堀口	小樽市銭函3-7
1.	6	木村恵美子	札幌市豊平区西岡3条9丁目6-23
1.	6	宮田 良子	札幌市西区山の手2条7丁目1-6
1.	6	倉本 龍彦	札幌郡広島町字中の沢135 道都大学北方息匠研究所
1.	6	高嶋 栄子	札幌市西区八軒10条西5丁目2-40
1.	6	時田 和子	札幌市中央区南2条西19丁目 円山プリンスハイッ601号
1.	6	平野 元実	石狩郡石狩町花川南7-4-45

入 年	会 月	氏 名	住 所
1. 6		渡辺 敏子	札幌市中央区宮の森4-10-2-16
1. 6		木下 文雄	札幌市東区伏古9条5丁目2-3 インベリアル伏古A-201
1. 6		綿谷 順子	札幌市中央区南18条西5丁目 マルゲンビル523
1. 6		後藤 洋子	小樽市緑3-10-18
1. 6		福島 靖代	札幌市西区西野10条6丁目4-19
1. 6		中平 悦子	札幌市西区西野9条8丁目1-16
1. 6		後藤 静子	札幌市中央区双子山3丁目1番地
1. 6		田村 昭	小樽市城上2丁目13-3
1. 6		藤堂ユキ子	札幌郡広島町青葉町2丁目2-7
1. 6		小野園美子	札幌市南区北の沢3-5-9
1. 6		牧野 洋子	札幌市西区琴似3-7-650
1. 6		原 舜吾	札幌市東区北22条東15丁目24
1. 6		富崎 圭祐	岩見沢市2条東4丁目
1. 6		田畑 チェ	江別市大麻泉町21-4
1. 7		北村 真弓	札幌市南区真駒内拍丘10-2-1-415
1. 7		鈴木 三郎	江別市大麻町3-3
1. 7		安藤ユキ子	札幌市西区八軒4条西2丁目3-24
1. 7		山光せい子	札幌市豊平区月寒東1条13丁目
1. 7		泉田 繁子	札幌市中央区宮の森2条1丁目1-3
1. 7		辻 桂子	札幌市中央区南10条西17丁目3-11
1. 7		内藤 千代	札幌市北区茨戸1-144
1. 7		澤田 純子	札幌市豊平区真栄130-108
1. 7		吉田 玲子	札幌市南区真駒内南町4丁目5-5-311
1. 7		飯田 英子	札幌市中央区南10条西18丁目1-7-234
1. 7		本庄ちはる	札幌市中央区北1条西23丁目290-43-302
1. 7		武田 修子	江別市大麻96-34
1. 7		須藤多美子	江別市大麻中町12-2
1. 7		高木 崇	札幌市豊平区月寒東2条8丁目5-1
1. 7		渡部 圭太	札幌市豊平区平岸6条13丁目2-11
1. 7		池崎葉奈子	札幌市南区常盤1条2丁目7-1
1. 7		玉井 武	札幌市中央区北5条西29丁目 宮の森グランドハイイツ313号
1. 7		池田 直治	札幌市東区北31条東18丁目5-10 ライオンズマンション107号
1. 7		塩田 藤雄	室蘭市宮の森町4-3-14
1. 7		池畑てる子	札幌市西区山の手3-2-104
1. 7		小林 隆子	札幌市中央区宮の森1条18丁目1-20
1. 7		神野 栄子	札幌市中央区南1条西25丁目 ループル富士 円山601号
1. 7		太田レイ子	札幌市中央区南10条西10丁目 レジデンス南10条の101
1. 7		奈良 英代	札幌市東区雁来町7条1丁目11-15
1. 7		室井とし子	旭川市東鷹栖2条3丁目

入 年	会 月	氏 名	住 所
1. 7		八島 聖子	札幌市中央区北8条西19丁目
1. 8		青木 和子	札幌市豊平区福住2条7丁目4-3
1. 8		福山 郁子	札幌市中央区南16条西14丁目
1. 8		小林トシ子	札幌市豊平区美園4条5丁目2-1
1. 8		川端 雅子	札幌市豊平区中の島2条10丁目3-4
1. 8		上関 敏夫	江別市大麻高町4-1
1. 8		高橋 平一	札幌市白石区菊水上町4条2丁目129
1. 8		砂山 春菜	小樽市長橋1-16-4
1. 8		林 千嘉子	札幌市西区福井4丁目21-5
1. 8		菊地美加子	札幌市豊平区澄川3条1丁目11-1 澄川カサデユーク50-302
1. 8		成田 京子	札幌市中央区宮の森7丁目3-22
1. 8		月館ともえ	札幌市西区西野2条2丁目8-1-306
1. 8		鳴海 悟子	札幌市東区北11条東15丁目24-1
1. 8		池田 京子	札幌市白石区青葉町10丁目4-16
1. 8		大嶋 和人	札幌市北区新琴似10条10丁目2-61
1. 8		矢澤 信彦	江別市牧場町16-2
1. 8		寺崎 宏子	札幌市東区北11条東1丁目
1. 8		西村知江子	札幌市豊平区中の島1-6-5-10
1. 8		阿部 節子	函館市美原2丁目51-3
1. 8		阿部 一夫	札幌市豊平区西岡1条9丁目8-1
1. 8		上野 博子	札幌市東区北46条東4丁目2-1
1. 8		今村 幸子	札幌市西区稲穂4条2丁目89-31
1. 8		鈴木 鶴子	札幌市南区真駒内332-85
1. 8		村井 文子	札幌市西区前田8条10丁目12-6
1. 8		根本 恵子	札幌市豊平区月寒東3条6丁目3-1
1. 8		相馬 淑子	札幌市白石区川下1条4丁目4-24
1. 8		酒井 信	札幌市中央区南8条西9丁目 山本ビル
1. 8		塚形 依子	小樽市新光3-5-3
1. 8		永井 光子	札幌市中央区北3条西13丁目 ダイヤパレス北3条204
1. 8		橋本 和子	札幌市中央区南1条西23丁目 チサン第8MS411号
1. 8		遠藤かつ子	札幌市中央区宮の森1条17丁目
1. 8		青野 正道	札幌市北区北24条西9丁目札幌北住宅201-22
1. 8		蔽内恵美子	札幌市白石区平和通9丁目北15-19
1. 8		下条三津子	札幌市西区山の手1条12丁目11-8
1. 8		高橋 道子	札幌市中央区北2条東7丁目 ラポール永山公園314号
1. 8		浜野 邦喜	札幌市南区定山浜温泉東4丁目
1. 8		杉本まさ子	札幌市白石区青葉町4-7-28
1. 8		尾崎 智子	芽部郡森町森川町252-66
1. 8		片岡 雍子	札幌市東区北10条東1丁目

# ……………国内美術研修旅行記

## 瀬戸内海美術の旅に参加して

会員 上田 静子



今回の瀬戸内海美術の旅には、何かしら期待されるものがありました。

倉敷の大原美術館は前から興味がありましたし、広島は日本人として必ず一度は訪れたいと思っていたのです。

その広島に現代美術館が出来たということが私の希望を更に強くしました。初めて現代という名称が使われた美術館、それも東京などの中心都市ではなく広島に！資料でその概観をみただけでも、実際にこの目で見たいと思わせるには充分でした。

当日この現代美術館を訪れたときは生憎雨模様でしたが、それがかえって美術館の建つ比治山公園の木々の緑と相俟って、華麗に、力強くそれでいて親しげに誘う様、その姿を浮かび上がらせていました。開館記念展として西ドイツのシュブレンゲル美術館名品展と広島の心をテーマに制作委託した作家78名の作品が掲げてありましたが、ゆったりとした雰囲気の中で、それらの作品を鑑賞していると、ここから平和と生命の尊さをアピールしようという静かな意気込みを感じ心が熱くなる思いでした。

この前に寄ってきました「ひろしま美術館」もまさに特筆もので、その内容のすばらしさに圧倒され、帰礼し

てからもしばらく興奮さめやらぬという状態でした。

幸運な事に御一緒した学芸員の池田さんの説明が鑑賞する楽しみを倍加し、大原美術館のエル・グレコ「受胎告知」、ひろしま美術館のピカソ「酒場の二人の女」、広島現代美術館のポール・ディヴィス「1945年、8月カンサスで原爆の話を書く」等、各美術館の作品の一つ一つの魅力もさることながら、もう一度必ず訪れようという思いを強くした旅でした。



## 函館美術館ボランティア「いちい」の会と懇談

道立函館美術館ボランティア「いちい」の会では、9月13日秋の研修ツアーで、旭川美術館で開催中の「佐藤忠良」展の鑑賞と同館ボランティア「常磐会」との交流を行い、翌札幌芸術の森と道立近代美術館を視察後、森副代表幹事他3名が協力会へ来訪、関川ボランティア部長他売店委員と短時間だが、懇談する機会を持つことができた。席上「いちい」の会では、3年目を迎え部員120名となり組織の見直しを検討中であること、売店・喫茶事業の収益が、ボランティア活動による利益であるのに、丸々税金を課すのは納得できないと、税務署に交渉中である等の話があった。また、当方からも売店商品の販売協力を今まで以上に

活発に行うことを提案し、お互い前向きに努力し合うなど、有意義な話し合いが行われた。



## ……………ボランティアだより

### サマー・ミュージアム、 そして絵本シアターに協力して

(解説部門ボランティア) 金 栄 洋 子



暑さの続いた夏休みの7月28、29、30日、サマー・ミュージアムの1つとして、絵本シアターが講堂で行われ二冊の絵本とクイズにより、子供達に楽しんでもらった。昨年は、読み聞かせとスライド映写をボランティアが担当し、今年は学芸員と共にチームを組み、クイズの司会、音楽も行うことになった。「まちへいったかばのホレーショ」「やまんばのにしき」の2冊の絵本から、スライドを作り、それに合わせてシナリオ作り、音楽づけ、読み手との調整、総練習と5回程の練習で本番を無事終えた。10名のチームで役割を決め、音楽係をすることになり、めぐりあわせかなーと思い、苦もなく音楽を聞く日が始まった。子供達にピアノを教えたり、伴奏したり、娘が小さい頃は、よく近所の子供達と遊んだり、童話を読んだり、子供と音楽にかかわってきたからである。

風の音、小鳥の声などの効果音レコードは、美術館で用意してくれ、他の音楽は家にあるレコード、テープとFMを使い、読み聞かせと情景を生かすよう心がけた。「やまんばのにしき」は日本むかし話なので、民族音楽とか、日本音階を使う曲がいいと思ったが、なかなか見つからず、オカリナ演奏を主に使ってみた。「かばのホレーショ」の方は、情景がはっきりしているので、ショパンのピアノ曲、ラリー演奏のフルート、バレエ音楽「眠りの森の美女」と家にあるレコードで間に合った。

クラシック音楽を聞いて、どんな情景が浮かぶか、とか作曲家は月の光を見て、この曲を作曲したと鑑賞でやったものだが、一枚の絵や、絵本を見て浮かぶ音楽も子供によっていろいろ、まして、音、様々な音楽であふれている現代、邪魔にならない音楽をつけてみた。暗くて、暑いブースで照明の学芸員、スライド映写係との三人で舞台と機器を見つめた三日間は、よい経験でもあった。

「来年は何の絵本をするの?」と楽しみにしている子供の話を聞くと、毎年行うことによって、楽しく遊べる場としての美術館を知り、足を運ぶ子供や親が増えてく

るだろう。

サマー・ミュージアムに、ボランティアが遊具等のアドバイス、製作補助として協力することになった年入部して7年になる。最初は1週間だけ開催され、ボランティアも、全員参加ではなかったが、子供と接するのが好きだったので、'82年「光とあそぼう」で写真現像の手伝いをした。'87年「きこえる絵・みえる音」では、音の出る落書壁では、フスマ一面に不用製図用紙を張り子供達に絵を描かせたこと等を思い出した。子供達がくると、何に興味を示すのかな?何を作るのかな?と個性いろいろが楽しく、「今度いつするの?」「千歳からつれてくるんですよ」「冬休みもあるの?」「子供をつれてくるとよかった」等の子どもや親の声を聞き、道民にも少しずつ知られてきているのがわかる。印象的なのは、サマー・ミュージアムにきていた女の子が、パスキンの「花束を持つ少女」を何度も見に来ていた姿。作品解説も聞き、心に残ったのでしょう。冬休みの子どもと親の美術館と共に、私もいろんな角度から美術を知ることが出来ました。

美術、音楽は本物のよさを子供に与えることが大切でその時わからなくても、子供の心のどこかに残るもの。ある作家は衣・住を節約し、子供を音楽会につれてゆくという。親も美術館も、地域社会もより作品、展覧会にふれる機会を作ってほしい。





## ……………ボランティアだより

### ボランティア活動をはじめ

(売店部門)

柴 草 康 子



協会による「10周年記念誌」とボランティア部発行の「美術館とともに」を再読させていただきました。美術館を支援し、ともに歩もうという気迫とご苦労の節目をのりきってこられた底力に圧倒されました。お仲間に入れていただいて半年にも満たない私など、ようやくその足あとを見つけたばかりの感じがいたします。

昨年は、安易な来館者の体で毎週楽しく講座に通わせていただきました。更に先輩の方々のご丁寧な研修等で、ボランティアとしての位置づけや心構えなどをご指導いただき、少しは理解できたつもりになっておりました。4月から売店部門に入れていただきましたが、聞くところでは大変な差、お手本通りにゆかず、先輩の方々にはご迷惑をかけ、落ちこんでおりました。そんなある日、絵葉書を買って下さった男性が「ボランティアなんですか。ご苦労さまです。」とさわやかな声。「頑張って下さい。」と帰られた時は、心が温かくなっておりました。又先日のサマー・ミュージアムの折も、親子で「楽しい時間をどうも」という言葉に同じ快さを感じました。「来館者に励まされているボランティアなんて。」とお叱りを受けそうですが、まだまだ真似の域を出ない今の私にとりましては、この時に味わいましたあたたかいものが、研修で教わった事々を実践していく原動力のような気がしております。一緒に入部した方々も以前はお会いしますと、「どうしていらっしゃる？」と心細げでしたのに、最近では、「何とかね」という言葉が返ってくるようになりました。皆さん頑張っているようです。

最後に入部当初より感じていることですが、館内の皆さんで交わす「お早うございます」、「ご苦労さま」の清々しさで、お互いの持ち場を認め、来館者をお迎えする心をたしかめ合っているように見え、いつも心地よくひびいております。

### 解説部門の仕事をして

(解説部門)

鶴 江 和 子



私達12期生は、平均子持ち三人以上というたくましいお母さん集団です。でも研修中は、久しぶりの緊張感の中で、円型脱毛症になった人や、夭逝の画家にのめりこみ、たまたまついた咳に、自分も結核と思いこんだりと(私です)、なかなか繊細な神経も持ちあわせています。一応、一人立ちした現在も、お互いに誉めあって、身内うけだねと笑っています。こんな出会い、又素敵な先輩、肉筆の数々の作品との出会いと、大きな収穫でした。

私が、12期生の中で、「よくやるね」と言われている事は、皆は、解説ボランティアをしていることを秘密にしているのに、私は友人に言って廻り、今までの解説全回とも誰かかれか来てもらっていることです。そうすると、準備にも少しは真剣に取り組めるかなと思う、怠け心『大』の私の作戦です。「美術館に来たの何年ぶりかなあ」とか「ヘーボランティアでやっているの」「なんて物好きな」なんて顔でいて、あとで必らず、感想を言ってくれます。「岩橋英遠の作品にひかれた」「今度夫をつれてくるね」とか「深井克美の作品に出会えて収穫だった」とか。今日の解説も又今いちだったと思っていた時も、その一言で、モヤモヤも消えます。

小さい時から絵を描くことは好きでした。でも去年まで、ドームも岩橋英遠も知りませんでした。そして今も次々と始めて見る作品が出てきます。作者の意図がつかめない現代アートや、抽象画、又、芸術も人間の歴史の中で作られているのだという実感、歴史もやらなくちゃとか沢山の課題があります。でも現在は、とに角ノルマを消化するだけで精一杯です。今すぐはとに角無理です。少しずつ、欲張らず、私のライフワークの一つとして、とり組んでいけたらと思っています。皆様、御指導、よろしくお願ひします。

## ……………ボランティアだより

### ボランティア活動に 携って

(資料部門)

林 美和子



美術館や画廊をめぐり歩くのが好きと言う気持ちが昂じて「婦人美術講座」を受講致しました。

毎週学芸員の方々の講義を聞くのが楽しく、受講後絵画に携ってられる折角のチャンスをこのまま終わせたくない、又少しでも人様のお役に立てたらと、資料部へ入部致しました。

資料部の仕事は、コツコツと地道に丁寧に根気のいる仕事です。肩がこり、目の疲れることもあり、いつまで続けられるのかなあと思うこともあります。

新聞の整理は、毎日の新聞から美術に関する記事を切り抜き、一つ一つ台紙に貼りファイルします。

又、ファイルにとじられている記事から、カードを起こし、引き出しに納めます。

今はまだ7年前のファイルからカードを起こしていますので、カードを起こしながら、その時々に見た展覧会や催し物等を、なつかしく思い出しながら、早く昭和の分を終えたいと思っております。

スライドの整理についてもさまざまな作業があり、一枚ずつ丁寧にフィルムをゲッベ（枠）に入れて、映写するとき作品そのものだけが写り、額や壁等が入らないようにテープで縁取りし、作品番号順や、作家別にシートに納めます。

初めて見る作品があったり、大好きな作品にめぐり会えたり、仕上げたスライドを眺めていると、喜びが身体の奥底から沸きあがり、ああやっぱりまだやめることは出来ないなあ、まだまだがんばらなくてはと、あらためて思われる今日此頃です。

## 事務局だより

### ◇会員の拡充状況について

今年度の美術館協力会事業の最重点に「会員の拡充」を掲げました。拡充の目標として、個人会員300名、法人会員50団体、合計350の会員を増やすこととし、役員1人3人以上を紹介することに申し合わせを行い、一般会員の皆さん方にも協力をお願いして参りました。その結果8月末現在ではお陰で、個人131名、法人9団体の新入会員を迎えることができました。拡充の目標からしますと、まだ半数に満たない状況でございます。なお一層のご協力をお願いします。

### ◇美術研修旅行について

1. 国内旅行は、第6回目として6月6日から9日まで3泊4日の日程で、広島市制100年、広島城築城400年を記念して建設された、広島市立現代美術館開館記念展として開催中の西ドイツ「シュブレンゲル美術館名品展」を中心に、ひろしま美術館、大原美術館、岡山県立博物館等を予定どおり見学しました。参加された方は23名でした。

2. 海外旅行は、第10回目として10月19日から11月1日までの14日間東欧の東ドイツ、チェコスロバキア、ハンガリー3カ国とオーストリア、フランスの2カ国8都市での美術館めぐりを計画し募集したところ、7月中旬に予定の30名に達しました。その後も希望される方が多かったので、主催者のJTBでは40名まで行けるように手配中とのことです。

### ◇ボストン美術館展と会員の鑑賞

7月15日から8月20日まで開催された「ボストン美術館展」は、14万人の入館者があったとのことです。協力会の会員証を利用された方も、今までに最高の2,057名の利用があり、全会員が同伴者と1回以上鑑賞したことになります。